

令和2年度第1回 台東区地域ケア全体会議 議事概要

日時：令和2年7月28日（火） ※新型コロナウイルス感染防止対策のため書面開催

出席者：18名

新田会長 須田副会長 加藤委員 木山委員 奥沢委員 鬼久保委員 山村委員
石井委員 宮本委員 小竹委員 上野委員 澤潟委員 柴田委員 和泉澤委員
高木委員 原嶋委員 齋藤委員 小竹委員

●台東区地域ケア会議の概要 資料1

台東区における6つの地域ケア会議

A「地域ケア全体会議」 B「チームミーティング」 C「地域ケア包括合同会議」

D「自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議」

E「地域ケア個別会議」 F「地域ケアネットワーク会議」 の目的・対象者・参加者を再度確認。

●令和元年度 地域ケア会議 実施状況 資料2

地域ケア会議の実施回数を報告。「台東区地域ケア会議全体図」にある  の回数が昨年度の開催実績となっている。

【委員からの意見】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、長期的に今後の地域ケア会議に支障が出ないことを祈る。
- ・各会議の実施回数が適切であるか否かは判断しがたいが、地域課題の解決策を考えていくことは大切だと考える。
- ・新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃だった。昨年度末のハイリスクな状況下での実施は、大変なことも多かったのではないかと？
 - ⇒（回答）当初、高齢者や持病のある方は感染した場合の重症化リスクが高いとされていたことから、昨年度末～今年度当初は開催を中止していた。6月以降は、各地域包括支援センターにて可能な限りの感染症対策を講じながら、一部会議を再開している。
- ・個別課題検討会議の中に「自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議」「地域ケア個別会議」「地域ケアネットワーク会議」ときめ細かく設定されており、高齢者保健福祉が充実していると感じた。

●令和元年度「自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議」実施状況について 資料3

令和元年2月19日開催の「令和元年度第2回 地域ケア全体会議」の際に、全14件の概要を報告。今回は会議後のモニタリング（3～6か月間）・モニタリング期間終了後の本人の様子を共有。

【委員からの意見】

- ・新型コロナウイルス感染症の悪影響が気がかりだ。行政としてどのような対応（支援）が可能か検討する必要があるかもしれない。
- ・生活支援コーディネーターが加わったのは良い方向性だと考える。多職種の多面的な観点から生活に対する助言が受けられているのはとても良い。身体的な「介護予防」という観点に加え、心理的なセルフケア、ストレスコーピングという意義もあると考える。1つの答えを出すというより、ブレインストーミングのように多くの方法をできるだけ出せるようになると、より良いのではないか？
 - ⇒（回答）昨年度より生活支援コーディネーターが加わり、計6職種が連携し多様な視点から本人に助言をすることができるようになった。各専門職種がより多くの方法を本人に提案できるよう、事務局も必要な支援を行っていく。
- ・ケアマネジャーとして介護予防・日常生活支援総合事業を担当しているため、参考になった。背景にある現病歴・既往歴・生活歴を把握し、より生活の中で実践できる対策を考えることが大事で、アセスメントと高齢者本人が望む生活の明確化が必要だと感じた。生活支援コーディネーターの存在を知った。
- ・各地域包括支援センターとも、専門職と連携し、高齢者本人の考えを尊重しつつ、生活のアドバイス・ケアを行っていることが確認できた。コロナ禍でのケアがどこまで出来るのか、生活への支障が出ていないか、懸念している。服薬に問題がある場合は薬剤師も支援機関の1つとして入れてほしい。
 - ⇒（回答）当会議とは異なるが、資料4にある「地域ケア個別会議」では、対象者の課題に応じ薬剤師を含む医療関係者も参加対象となっている。今後そのような連絡がある際は、ご協力をお願いしたい。
- ・きめ細かい支援によって、自立しようとする力を引き出していると考え。目標が3か月後、6か月後と具体的になって取り組みやすくなっている。
- ・高齢者本人の目標とモニタリング結果が対応しているように感じた。
- ・殆どのケースで成功事例に結びついていることは、関係者の努力の証だと考える。一方、新型コロナウイルス感染症の影響で、積み上げてきたものが中断されてしまうのが残念だ。
- ・個々の高齢者本人に対してきめ細やかな支援活動を行っており、驚いている。

●令和元年度「地域ケア個別会議」実施状況について 資料4

令和元年2月19日開催の「令和元年度第2回 地域ケア全体会議」の際に報告したケースに加えて、資料4「地域ケア個別会議 実施概要」のNo.に★があるNo.2・11・13・14・18のケースが追加報告分。会議で決定した支援方針に対する実施状況を共有。

【委員からの意見】

- ・支援困難ケースの多くが認知症の高齢者に係るケースであることを改めて痛感した。
- ・様々な課題に対して具体的にプランを提示できていることはすばらしいと感じた。十分に区民に周知されていない可能性のある、下記のような事項も、何らかの方法で広められると良い。
例：地域福祉権利擁護事業、あんしん台東、お薬ロボ、もしもノート、地域猫ボランティア、委任契約
⇒（回答）各事業を実施している部署・関係機関と随時情報共有を行い、区民の相談主訴に沿った提案ができるよう、より一層努力していく。
- ・当会議に挙がる対象者は、複数の課題や住まいの問題を抱えている場合が多く、支援機関の視野が狭くなることも少なくない。その際、多くの人の意見を聞くことで気づきや解決策が生まれることがあると考える。抱え込まず、当会議に事例提出することも大切だと感じる。
- ・資料2～4の各地域ケア会議、全体を通して新型コロナウイルス感染症の影響により、インターネットの活用について行政及び医療・介護事業者と一体となって対策を検討する必要性を感じている。診療や服薬の自己中断、人が入ることによる被害妄想の軽減と地域ケア個別会議の課題に挙がる項目の解消にもつながると考えている。
- ・地域の人や多職種の協力・支援があることを確認できた。コロナ禍での医療施設の受診が困難な人もいるため、苦勞を感じる。
- ・多くの人の見守りの中で日常を維持していこうとする姿勢が見られた。今後の対応、支援の方向が明確化されていて分かりやすかった。
- ・実際に課題に対応した日付の記載があることで、会議開催日からの変化がより明確になると考える。
⇒（回答）実際に対応を行った日付の記載について、検討する。
- ・困難な事例に対して粘り強く取り組まれ、敬意を払いたい。
- ・昨年度開催した21回分の当会議は困難事例の検討が目的のため、長時間になると予想される。Zoomなどを活用したweb会議は検討しているか？
⇒（回答）状況によるが、1件あたり1.5時間ほどで情報の整理、検討をしている。また現状として、
 - ①参加者（介護事業者・民生委員など）の間でインターネット環境の違いがある
 - ②PCの貸し出しといった、開催に向けた区の支援が難しいといった課題があり、web会議について具体的な方針が打ち出せない状況だが、事務局もweb会議の必要性・重要性を感じている。
- ・個々の対象者に対する支援方針が明確で、その方針に対するフォローアップが非常に充実している。

●今後の地域ケア会議について

新型コロナウイルス感染症が収束していない状況から、区は地域ケア会議の実施について以下の通り対応している。

D「自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議」

①高齢者本人が参加する会議を区が開催することはリスクが高い。
②自立支援・介護予防のために提案する社会参加や生きがいに繋がる具体的な地域の活動（通いの場・ボランティア活動等）が機能していないため、本人に対し実行性の高い提案をすることが難しい。
上記2点のことから、今年度開催予定だった全14回分（2件×7包括）を中止とした。

E「地域ケア個別会議」

各地域包括支援センターが対応するケースの中で主に困難事例を検討する会議のため、マスク着用、アルコール消毒の実施などの区のガイドラインに沿った感染症対策を講じながら、慎重に開催することとしている。また、従来参加の対象となっていた民生委員・町会関係者等の高齢者には、必要に応じて参加の依頼をしている。

B「台東区チームミーティング」

C「台東区地域ケア包括合同会議」

下部会議の一部を中止していることから、その都度上部会議の有効性を検討の後、開催の可否を判断していく。